

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSWニュース 1月号

2018年1月1日発行

事務局：大浜第一病院
〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail mshimoji@nch.naha.okinawa.jp

編集：下地 舞
(那覇市立病院)

九州医療ソーシャルワーカー協議会 中堅者研修

平成 29 年 12 月 22 日

有料老人ホームはーとらいふ 宮城幸子

平成 29 年 11 月 24 日(金)に開催された、九州医療ソーシャルワーカー協議会中堅者研修に参加をしてきました。「職場に活かす行動科学」というテーマで、九州保健福祉大学の臨床心理士前田直樹氏が講義をしてくださいました。

行動理論では、対象となる行動を明確にして、その行動を数量データによって客観的に測定し問題解決を図る方法です。例えば、「問題行動が 1 日何回起きているのか」「何分間授業で座ってられるか」などの客観的なデータを収集し、そのデータから行動の変化、心理状態の変化を判断するとのことでした。仕事での後輩育成やクライアントの行動変容にも活かせる方法でした。

講義の中で、性格検査としてエゴグラム、気分検査として POMS というものをしました。自身の性格の傾向や現在の気分の状態を知ること、今までの行動パターンを変え外側から内面を変化させていくことができると学びました。私はエゴグラムも POMS も当たり障りない結果となりましたが、一緒に研修に参加した樋口会長や先輩方は面白い結果になっていたようです…(笑)興味のある方はぜひ、結果を聞いてみてください(笑)

私が講義のなかでいちばん印象的だったのは、森田療法を用いた問題解決です。森田療法をご存じの方もいるかと思いますが、森田療法とは、心の問題を取り出してそれを修正しようとせず、ありのまま受け入れ、目の前のやるべきこと(仕事)をすることでそのうち心の問題はいい方向に向かっていくという考え方です。ありのままを受け入れるということは、簡単そうで意外とできてないことだなと感じました。また、ソシ

CONTENTS

九州医療ソーシャルワーカー協議会 中堅者研修	1
入退院支援連携デザイン事業 意見交換会・見学会報告	2~3
めだかの学校報告会	3
理事会議事録	4~5
OGSV ご案内・申込み	6~7
コラム	8

ャルワーカーとしても、クライアントの支援で活かせる行動療法だと思いました。今回学んだことを、現在少しずつ業務の中に取り入れているところです。なかなか結果はできませんが、地道に取り組んでいきたいと思えます。

平成29年度 沖縄県入退院支援連携デザイン事業
在宅医療・介護連携推進事業に係る意見交換・見学会
＜南部・中部圏域：那覇市立病院会場、北部圏域：勝山病院会場＞報告

那覇市立病院 医療福祉相談室 樋口 美智子

当協会では、平成28年度より沖縄県から「入退院支援連携デザイン事業」の委託を受け、市町村の地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを支援する事業を実施しています。

平成29年度は、改めて地域の関係機関の皆さんに、医療機関の機能や医療ソーシャルワーカー・退院調整看護師等の退院支援職員の役割について理解を深めていただくこと、また実務的な入退院支援連携における課題について、率直な意見交換や見学により今後の協働に資することを目的に、意見交換・見学会を開催しています。

第1回は那覇市立病院を会場として、平成29年12月 5日(火)午後 13:30～16:30に開催されました。参加人数は、56人＜市町村等(18ヶ所)職員:28人、医療機関(11ヶ所)職員:26人、その他県職員・事務補助員:2人＞と盛況でした。

内容は、講義＜医療機関や病床機能について、MSWの役割や入退院支援連携の実際について＞の後、グループに分かれて院内関係部署の見学や実際の退院支援計画スクリーニングのデモンストレーション等を行いました。7グループに分かれての見学でしたが、デモンストレーション場所では渋滞(!)も起きました。意見交換では、講義や見学では解りにくかったことを質問し合ったり、お互いの困りごとや工夫していること、これから協働できそうなこと等について熱心に話し合いが行われました。そして改めて地域から病院は見えにくいこと、また病院の実態を知っていただく機会を多く持つことの必要性を感じました。

また、平成29年12月6日(水)には、勝山病院を会場に意見交換会が開催され、市町村等職員24人、医療機関職員9人の計33人が参加しました。

今後の予定は、平成30年2月22日に豊見城中央病院、年度内に浦添総合病院・中頭病院を会場に開催予定です。市町村職員からは、緩和ケア病棟や慢性期病院等の見学希望も多く、次年度からは県デザイン事業としてではなく、市町村のニーズに応じて各医療機関が共催する形で継続できるよう、県MSW協会として協働していきたいと思えます。



めだかの学校参加報告

平成 29 年度 第 7 回めだかの学校
沖縄赤十字病院 兼濱 愛里

11 月 22 日(水)、講師に中頭病院 MSW 秦 克之氏をお招きし、急性期病院の退院支援についてご講話いただきました。参加者 8 人全員が急性期病院の MSW だったので、「急性期あるある」を出し合いながら、日頃の活動を振り返る機会となりました。

急性期病院は診療群分類別包括評価(DPC)が導入され、医療の質の向上と在院日数の短縮が求められています。一方で、沖縄県では人口に占める65歳以上の割合が 21%に迫り、さらに、世帯総数のうち単独世帯が最多となり、支援を必要とする人はますます増えています。

そんな毎日のなかで右往左往し、自分の立ち位置を見失ってしまっている私があります。今回、講話のなかで「少し背伸びすれば届く目標に対してどれだけ本気で取り組むか」、「今業務が大変とってる人？その大変さは 10 年立っても変わらない。付き合っていくしかない」、「ワーカーは地域を知らなければいけない」など、たくさんの秦語録を聞かせていただき、これからの活動に希望を持つことができました。

秦さん、貴重なお話をありがとうございました。これからも私たち新米 MSW へのご指導よろしくお願ひします。

理事会 議事録

開催日時	2017(平成29)年12月18日(月)18:30~20:00
場所	総合福祉センター西棟2階
出席者	樋口、安慶名、香村、秦(記録)、當銘(司会)

【各部会報告】

1. 研修部(香村)

入退院デザイン関連で研修2回 1/13 1/20 宜野湾マリン支援センター

1/13 参加者63名 1/20の参加者17名

●めだかの学校:未定

●めだかの放課後:テーマ 未定

日時:平成30年1月26日(木)19時 場所:大浜第一 対象:概ね3年未満の新人MSW

参加費:無料

●めだかのホームルーム:テーマ 未定

日時:平成30年1月18日(木)19時 場所:沖縄共同病院 対象:概ね5年から10年の中堅 SW

参加費:無料 問い合わせ:

●OGSV

平成30年1月10日→17日 浦添総合病院のレセプションのため日程1週間ずらす。内容未定

2. 広報部(代理:安慶名)

担当:市立病院 下地さん トピックは又吉さん予定 ハローワークは琉大病院 1名

その他

●12/23(土)デザイン事業

参加者66名 日時:H30年5月19日・20日に沖縄で開催予定

●2/8(木)第四回デザイン事業研修 総合福祉センター 講師:金城先生

●3/17(土) デザイン事業 講師:漆畑さん・野上さん 入退院支援をソーシャルワーカーの立場で考える。

* 沖縄県 SW 協議会より

第6回ソーシャルワーク学会 & 社会福祉公開セミナー

・2018年2月24日(土) 場所: 沖縄国際大学 ・エントリー締め切り 2月24日

1/27 医療マネジメント見学会 場所: 大浜第一病院

・見学会 2/22 豊見城中央病院 中頭病院 未定 12/25 浦添市デザインについて

3. その他

九州医療ソーシャルワーカー協議会報告

第二回実行委員会 テーマ ソーシャルワークの肝心 テーマ決定

内容ハンセン等の内容 基調講演 社会学の先生、琉大 安藤先生

シンポジウムで意思決定等の内容でハンセンの方をおよびする。

座長は樋口さんが適任ではないか

→シンポジウムでハンセンを取り上げるのは難しいのでは

もう一度練り直す

ワークショップのテーマ

ソリューション大垣先生 ナラティブ等

日 時	1月17日(水)18:30~
場 所	大浜第一病院 2階 第1会議室
担 当	司会: 當銘 書記: 伊礼 連絡: 石郷岡

コラム 「一人はさみしい」

担当：A・M

Iさんは、舌癌、中咽頭癌疑いで入院となった患者さんでした。元々独居で身寄りもいらず、今までは3ヶ月に一度、地域包括支援センターの方が自宅を訪問し、見守り支援を行っていたとのこと。

入院された時点で頸部リンパ節転移、肺転移もあり、腫瘍も大きいため積極的な治療を行える状況ではなく、緩和ケアへ移行することとなりました。

口腔内の腫瘍で発話が思うようにいかず、なかなか本人の意志を汲み取ることが出来ない状況でしたが、担当看護師さんから、本人が「一人はさみしい。」と話していたという話を聴き、生活保護課や地域包括支援センターなどの関係機関を集め、本人の希望を確認したところ、今後は緩和ケア病院へ転院しゆっくり療養することを希望されました。

身寄りがいらないため、金銭管理や亡くなった後の対応、遺品の整理、自宅アパートの退去の手続き等、事前に関係機関を含め話し合いを何度も行い、最終的に身寄りなしでも受け入れてくださる緩和ケア病院へ転院が決まりました。

転院後も2回ほど本人に会いに伺いましたが、ファミリーパックのお菓子4袋を1週間で食べきるほど食欲旺盛で、好きなコーヒーとお菓子を食べながら、自由にマイペースに療養されていました。

難しいケースではありましたが、私に関わったことで少しはIさんらしい生き方のお手伝いできたのかなと思うケースでした。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 ホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

★編集後記★

年末に入り急に寒くなり、かと思えば、暑くなったり…。安定しない天気と気温に振り回される時期ですが、風邪など引かないよう体調管理に努めたいものですね。

今回、お忙しい中原稿を快く引き受けてくださった協会会員の皆様、ご協力いただき本当にありがとうございました。